

今ももう 永遠を見つめ孤独に涙し 未だ耳に残る声。  
夕暮れを唄う小鳥の気持ちになる。

「小鳥」DOIMO!

吸血鬼はヘヴィメタルが好きなんだよ。悪魔の音楽だからね。  
そう言って笑った貴女はいつも適当ばかり。

1.

死のう、とは思っていなかった。  
死んでもいいかな、とは思っていた。

どうせ行く場所なんてないのだ。わたしは逃げるように、いや、  
逃げるために家を、町を、飛び出した。

有り金を全額つき込んでようやく行ける駅への切符を買った。  
わたしは女子中学生であることをやめたのだ。先のことなんて何も知らない。のたれ死ぬのはまだマシンな方だろう、と世間知らずのわたしでもわかっていた。庇護の手を離れたこともがまともな生きる道なんてきつとない。想像したくもないようなことばっかりだ。それでも。

それでもわたしはあの生活から、あれを生活だなんてこまかすこと  
から、逃げたかったんだ。

揺れる列車の中。手元の切手が、きみはどこにもいけないんだよ、  
とささやくような気がして、震えた。

降りた駅はとにかく人が多かった。ざわめく声が空気にとけ込んで  
いるような、うるさい町だ。

ほんの少しだけ恐怖感の薄れ、この人混みの中に取り込まれて『わたし』なんてものが無くなってしまえばいいのに、といったことを  
考えながら改札を出た。

少し離れた場所で笑い声があった。見てみるとちよつとした人ばかり  
が出来ていたので、興味を持って近づいてみる。

どうもどうも。

じゃあ、次の曲、の前にちよつとチューニングいいですか。いや  
悪いつて言われてもやりますけど。

というわけで聴いてください。四弦の開放。

女のひとがアコースティックギターを持って喋っていた。弾き語  
りだか漫談だかわからないけれど、うけてはいるようだ。

ありがとうございました。じゃ、最後はジュエダス・プリースト  
のペインキラーをコピーして終わります。

ひときわ大きな笑いが起こる。女性がアコースティックギターの  
ボディを叩いてリズムを取り始める。

Faster than a bullet Terrifying scream

Enraged and full of anger He's half man and half machine

Rides the Metal Monster Breathing smoke and fire

Closing in with vengeance soaring high

He is the Painkiller This is the Painkiller.....

明らかに曲調が違うけれど、知っている曲だ。それも思い出した